

# 脅迫文の分析と解釈——江崎グリコ事件から——

芳賀 純

## 1. 課題

昭和 59 年 3 月 18 日、兵庫県西宮市の江崎勝久グリコ社長宅に二人組（車を運転していた者を加えると 3 名）の男が侵入し、社長を連れ去ったが、3 月 31 日に社長はしばられたロープを解き、水防倉庫から自力で脱出した。誘拐の期間と脱出後 6 月 26 日までの時期に計 6 通の脅迫状が犯人から送られてきた。この小論は、それら脅迫文の言語的特徴を分析し、可能な解釈を試みることを目的としている。

## 2. 資料と分析の方法

脅迫文資料は新日新聞社が入手した、犯人からの和文タイプで印刷された脅迫状の写しである。（注 1）社長誘拐直後 3 月 19 日付の最初の脅迫状は改行、分かち書きなど原文通りに示すと次の（資料 (1)）通りになる。

〔資料 (1) 3 月 19 日〕

字数	5	10	15	20	25	空白	文字数	漢字
人質はあづかった							8	2
現金10億円 と 金100kg を□						4	16	5
現金と金は 白か アイボリーの ライトバンに□						4	23	4
のせて あすの ごご5じまでに 藤江部長の□						4	22	4
タカツキの うちの まえにおけ						2	15	
車には 北摂の道路に くわしい 会社の運てん手だけ□						4	26	9
のっておけ							5	
れんらくは藤江 のうちえ TELする						2	18	2
このことを しらせてええのは とりひきさきの□						3	23	4
銀行の支店長と 会社の運てん手と金子と 藤江だけや						2	25	13
けいさつに しらせたら 人質を かならず 殺す						4	23	3
けいさつにも 会社にも 電電公社にも ナカマがいる						3	25	6
ぎゃくたん知 しても すぐわかる						2	16	1
金 もらったら 科学的な 調査して 24じかん□						5	23	6
したら 人質を かえす						2	11	2
現金は 新さつを つかうな						2	13	3
とりひきは いっさい しない						2	14	
いうことだけ きけ						1	9	
計						46	315	60

この文は冒頭の「あづかる」が歴史的仮名遣いで「づ」となっているが、12文からなる短いものである。また、この文章には句読点が省略されているということも特徴となる。脅迫文の分析方法という定式があるわけではないので、文章を熟読することによって、まず各行の分かち書きのスペース（空白）数（これは字数に含める）と字数を数えることにした。この方法をとると、行変えの部分に、スペースがあるはずだと判断できる箇所が出るが、その部分は□印で補い、1スペース

として数えることにした。他に漢字の使用も識別できるので、各行ごとの漢字数も数えることにした。

なお、資料(3)と(6)では、行中に文が改まる箇所があるが、スペースのみで句点が打たれていないので、その箇所を//で示してある。資料(3)の場合はそのスペースも欠いている。この句点が対応しているスペースは、文節を示すスペースとは別に句点として数えることにした。

以上の方法で文の形式的側面を数量化した結果は、資料(1)の右側にまとめて示してある。

次に、残りの5つの脅迫文についても同様な分析を行った。最初の資料(1)の文面には宛名が書かれていないが、資料(2)から(6)まではすべて宛名が示されている。また、資料(3)からは偽名の署名が加えられている。この宛名と署名は、本文の字数に数えていない。以下は資料(2)から(6)までの分析結果である。

〔資料(2) 4月8日〕

字数	5	10	15	20	25	空白	文字数	漢字
けいさつの あほども え						2	12	
おまえら あほか						1	8	
人数 たくさん おって なにしてるねん						3	19	
プロ やったら わしら つかまえてみ						3	18	2
ハンデー ありすぎ やから ヒント おしえたる						4	23	
江崎の みうちに ナカマは おらん						3	17	2
西宮けいさつ には ナカマは おらん						3	18	2
水ぼう組あいに ナカマは おらん						2	16	2
つこうた車は グレーや						1	11	1
たべもんは ダイエーで こうた						2	15	
まだ おしえて ほしければ 新ぶんで たのめ						4	22	1
これだけ おしえて もろて つかまえれん かったら□						5	26	40
おまえら ぜい金ドロボー や						2	14	1
県けいの 本部長でも さろたるか						2	16	4
計						35	223	15

〔資料(3) 4月23日〕

字数	5	10	15	20	25	空白	文字数	漢字
けいさつの あほども え						2 (宛名)	12	
おまえら うそ ついたらあかんで						2	16	
うそは ドロボーの はじまりや						2	15	
ちょうせん状は 甲子えん けいさつえも□						3	20	28 3
おくったやないか かくしたら あかん						2	17	9
なきごと ゆっとる ようやから□						3	16	28
また ヒント おしえたる						1	12	
工場えは 通用門から はいった						2	15	5
タイプは パンライターや//ポリよおきは□						2	19	12
ひろいもんや							6	13
かい人21面相						(署名)	6	3
計						17	136	8

〔資料(4) 5月10日〕

字数	5	10	15	20	25	30	空白	文字数	漢字
まづしい けいさつ官たち え							2 (宛名)	14	1
うそは ドロボーの はじまり ゆうたけど まちがい やった							5	29	
けいさつの うそは ごう盗の はじまり やった							4	23	1
まえの TEL とおくから かけたのを また かくしとるやろ							5	29	
また けいさつで ごう盗 である							3	16	1
グリコは なまいき やから わしらが ゆうたとおり□							5	26	}47
グリコの せい品に せいさんソーダ 入れた							3	21	
0.05グラム 入れたのを 2こ なごや おか山の あいだ							6	30	}38
の 店え おいた							2	8	
死なへんけど にゅう院する							2	14	2
グリコをたべて びょう院え いこう							2	17	1
10日したら 0.1グラム 入れたのを 8こ 東京 ふくおか							6	30	}42
の あいだの 店え おく							3	12	
また10日 したら 0.2グラム 入れたのを 10こ 北海道□							6	29	}46
おきなわ の あいだの 店え おく							4	17	
グリコをたべて はか場え いこう							3	17	1
かい人21面相							6 (署名)	6	3
計							59	318	18

〔資料(5) 5月18日〕

字数	5	10	15	20	25	空白	文字数	漢字
ダイエーの 社長え							1 (宛名)	9 2
グリコの せい品 うらんで よかったのう							3	20 1
あとで わかるで							1	8
もうすぐ 8コ おかなならん							2	14
わしら こまっとるんや							1	11
どこいっても グリコ あらへん							2	15
はよ 店え おいて ほしい							3	13 1
はじめに おいた スーパーか デパートには□							4	22 }39
8こ のうち 5こ サービスしたる							3	17
ほかの スーパーえ おまえの とこから□							4	20 }28
れんらく しとけ							1	8
かい人21面相							(署名)	6 3
計							24	148 7



表 I. 脅迫文の特徴

a)日付	(1)3月19日	2)4月8日	(3)4月23日	(4)5月10日	(5)5月18日	(6)6月26日	
b)宛名	(金子社長室長 藤江取締役)	けいさつの あほどもえ	けいさつの あほどもえ	まつしいけいさつ 官たちえ	ダイエーの 社長え	全国のファンの みなさんえ	6通全部 で
c)送り手名	江崎勝久	ナシ	かい人21面相	かい人21面相	かい人21面相	かい人21面相	
d)届いた場所	公衆電話ボックス	毎日へ速達	毎日、サンケイへ	朝日新聞など4社	毎日、サンケイへ	朝日新聞など4社	
e)本文字数	315	223	136	318	148	490	1630
f)分かち書き	46	35	17	59	24	75	205
g)平均文節字数	5.43	4.74	5.44	4.54	4.63	9.8	5.78
h)漢字数	60	15	8	18	2	25	128
i)漢字使用率	19.05	6.73	5.88	5.66	1.35	5.10	7.85
j)文数	12	12	8	11	8	26	77
k)平均文長	26.25	18.58	17	28.91	18.5	18.85	21.17
l)文長S.D.	18.65	7.58	6.67	11.99	9.63	7.07	11.52
m)変異係数	71.05	40.80	39.24	41.47	52.05	37.50	54.42
n)備考			1箇所空白詰め	標語2行		標語3行	—

〔脅迫文の字数〕 まず、脅迫文の本文総字数(e)は136字から490字にまたがり(文中の空白(スペース)は1文字として数えてある)、平均すると271.7字となるが、どの文も“長い”文とは言えない。特に資料(1)では315字、(6)で490字となっている。この2通は他よりも字数が多いが、この字数の多さはないようの多さに応じていると言える。

〔空白と文節の長さ〕 表中f)は本文中の分かち書きの空白数を示し、g)は本文総文字数(e)を、分かち書きの空白数に分数(j)を加えた数で除した値を示し、平均文節字数を指している。この平均文節字数の値は6つの脅迫文で文例(6)以外は比較的類似している。ということは、分かち書きという点では、6つの文のうち5つが同様な書き方になっていることになる。

〔漢字の使用率〕 本文中の漢字数(h)と漢字使用率(i)で6つの文を比較すると、6つの脅迫文の漢字使用率の平均値は7.85%となった。この値は、新聞の報道記事の漢字使用率がつねに60~70%を越えること、大学生の随筆文の漢字使用率が27%前後であったこと(注3)などと比較すると極めて低い値である。6つの脅迫文のうち、最初の脅迫文が最も漢字使用率が高く、19.05%となり、最も使用率が低い文は資料(5)の1.35%であるが、後になる程使用率は減少の傾向を示している。

〔漢字の種類〕 用いられた漢字の種類を見ると、6つの文を通してすべての漢字が名詞か名詞の一部を示す漢字で、その中でも特に固有名詞(人名、職名、場所名)に用いられている。資料(1)の最初の脅迫文では60漢字が使用されているが、そのうち17字(28.3%)は固有名詞で、他に3回用いられている「会社」も加えると21字(35%)になる。この文で「人質」と「現金」がそれぞれ3回用いられているが、この最初の脅迫文では、全体としてキーワードに漢字が用いられていたということがわかる。

〔文の長さ〕 平均文長(k)とは本文字数(e)を文(センテンス)数(j)で除した値を指している。まず、6つの脅迫文の本文の文数を見ると、8文から26文までにまたがり、平均は12.8文となり、この種の本文のセンテンス数は少ないことがわかる。平均文長について、資料(1)の最初の脅迫文と資料(5)がそれぞれ26.25字と28.91字となり、一文を構成する字数が他と比べてきわめて高い。

このことは伝えたい内容が多く、複雑であるということを示唆している。

〔文長のバラツキ〕 文長の標準偏差値（S.D.）(1)は、それぞれの脅迫文中の各文（センテンス）の長さの「バラツキ」を示す値であり、この値が大きいほどバラツキが大だとされている。この標準偏差値だけで見ると、資料(1)ではその値が特に大きく、資料(6)は特に低い。しかし、標準偏差値は、そのもととなる資料の量によって変動するので、この変動を修正するために、変異係数（coefficient of variation）(m)も求めてみると、資料(6)の場合のバラツキは資料(2)、(3)および(4)とほぼ同程度で、資料(1)が特に、そして資料(5)がややバラツキが大であるということがわかった。

## (2) 内容的側面からの分析と解釈

文章を内容的側面から分析する場合、2つの可能な見方がある。その1つはその文の意味内容が、その文が書かれている語句の意味通りだと考える立場で、他の1つは、書かれた文は何かの目的を達するための手段や道具であって、必ずしも書かれた通りの意味を示しているのではないとする立場である。このあとの立場の場合には、文の意味を読みとるために、書かれた文以外の状況や、だれがだれに、あるいは何を目的として書かれているのかというような言語外の要因も利用することになる（注4）。この小論の分析では、上記の両方の立場を考慮している。

〔送り手の署名と宛名の変動〕 表1のb)に示したが、最初の脅迫文の送り手は社長名になっているが、資料(3)の第2の手紙以後は一貫して「かい人21面相」となっている。この名前は、昭和10年代にはすでに多くの子供に読まれていた江戸川乱歩（1894-1965）の少年探偵小説『怪人二十面相』をもじったものと考えられる。このことは、送り手が、この小説やその後の一連の小説に登場し、完全犯罪を試みようとした作中人物の「怪人二十面相」と同一化し、「21面相」ということでそれ以上の知力があることを誇示しようとしていることがうかがわれる。

次に、社長誘拐中に出された手紙（資料(1)）には宛名はなく、会社の責任者が電話ボックスで手に入れている。この宛名は、資料(2)から(4)までは「けいさつ」となっており、(5)は、グリコの製品を当時店頭から取り除いた「ダイエーの社長」に、(6)は「全国のファンのみなさんえ」となり、犯人が意識している対象が広がっていることがわかる。

〔標語の使用〕 資料(4)では2行、資料(6)では3行標語が用いられている。この標語については、グリコ株式会社が昭和15年8月に『興亜の子供』（第一巻、第一号）という雑誌を刊行し（注2）、その中でグリコについての標語（当時「豆文」と呼ばれていた）をおとなと子供の両方から募集して入選作（たとえば「トンボツリ グリコ ノハコヘイレテクル」、「コロンダコニダグリコヤル ワラッテル」など）を発表している。この豆文広告文の募集は昭和8年から18年まで続いたが、資料(4)と(6)の標語が文体の上で類似しているとも考えることもできる。資料(4)の標語は否定的な意味内容で、資料(6)ではそれが肯定的な内容に変わっていることから犯人の態度にも変化があったことが推察される。

〔6つの脅迫文の書き手〕 社長の誘拐は3人の男によってなされたが、6つの脅迫文の書き手は同一人物か、そうではないのか。ここの疑問に対しては、形式的面からの分析で6つの文章の間

に部分的な差が見られるとはいえ、その性特定の資料に集中しているわけではなく、他に6つの文章の間に共通点も多く、文の原型は怪人21面相と自称している犯人の手によって書かれたものと考えられる。また、その理由として、内容的側面から見ると、たとえば資料(1)の「あづかった」と資料(3)の「まづしい」には旧仮名遣いが用いられていること、また、資料(1)から(6)までは一貫して「〇〇え」と現代仮名遣い(昭和21年から使用された)では「へ」となるべき助詞を「え」としている点も共通している。また、資料(2)、(3)、(5)、(6)で「わしら」が用いられる一方で、資料(6)の標語の1つで「わしら」が用いられており、同じ資料(6)の特定の知識を前提とした「ホームズ」と「怪人二十面相」への言及がなされている。以上から、書き手が複数であるというよりは1人であると考え方が可能性が高い。

〔犯人像〕 脅迫文を書いた犯人は、文字通りに文を分析すると1人の男性で、相手を「おまえら」と呼ぶとき自分を「わし」と呼ぶ人物で関西弁が使用できる人物である。年齢は、旧仮名遣いの影響が残っている年齢であると言える。また、もしグリコ「豆文」を知っていたとすれば、豆文が募集された時期に児童期かそれ以上の年齢にあったと推察される。グリコ事件は昭和59年(1984)に起こったから、豆文の時代からおよそ50年が経過している。犯人が、豆文が募集された時期に何歳であったかが推定できるとその年齢におよそ50年を加えた年齢が犯行の時の年齢であるということができるだろう。

#### 4. 結語

ストーンら(1966)(注5)は、言語的メッセージの分析をする手続として、(a)最も代表的なテキストを選別する、(b)そのテキストの中のどの部分を数え上げるか、および、その分類カテゴリ(または単位)とその基準を決めること、(c)測定結果から結論を推論するための論理をあらかじめ決めておく、という3段階をあげている。本小論文の分析と解釈も、ストーンの手続を踏む形でなされている。

本研究の場合、分析すべきテキストは選択するというよりは、すでに与えられていた。しかし、そのテキスト(脅迫文)のどの部分を、どのように数え上げるかは、何を分析の主目的にするかによって異なってくることになる。本研究では、数量化できる単位とこの単位から導くことのできる指標を表1のe)からm)までとし、数量化できないがカテゴリとして示しうるものをa)からd)およびn)、o)として取り上げている。

解釈は、以上の数値とカテゴリに他の状況的要因を加えて、総合的な判断を下す方向で試みてみた。その結果、犯人による脅迫文の言語的特徴と犯人像についていくらかの新しい情報が得られたが、犯人を同定するという段階にまでは到らなかった。この同定のためには、言語面で新しい分析単位やカテゴリを加えるか、あるいは言語外の状況的要因がさらに得られることが必要であろう。

注1. 資料は、朝日新聞大阪本社のデスクから資料に関する意見を求められた際に入手した。

注2. 朝日新聞大阪本社のデスクから入手した。豆文広告の募集は近代川柳にならって発案され、昭和8年から18年まで続けられた。

注3. 芳賀純「大学生の文章の量的記述と漢字使用率」(林四郎編『現代漢字の研究：文部省科学研究費特定研究(1)「言語」報告書』1980年3月20日、48-60ページ)では、100名の大学生(うち23名は女子)に400自邸どの随想を書かせて結果を分析したが、漢字使用率は男子では27.17%(S.D.=3.94)、女子では26.60%(S.D.=4.14)、そして全体では27.02%(S.D.=4.01)の値になった。

注4. コミュニケーションの場で発せられた言語的メッセージを分析する方法の1つに内容分析(content analysis)法がある。ベレルソンの古典的研究(Berelson, B. R., Content Analysis. In Lindzey, G. (eds.) Handbook of Social Psychology, Vol. 1. Addison-Wesley, 1954)では、分析の単位に、(a)何を言おうとしているのか(What to say category)、(b)どのように言おうとしているのか(How to say category)、(c)なぜ言おうとしているのか(Why to say category)があげられていた。その後、プール(Pool, De S. (ed), Trends in Content Analysis. University of Illinois Press, 1959)がメッセージの分析に、メッセージを文字通りに理解するアプローチ(representational approach)と道具的、手段的なものとするアプローチ(instrumental approach)があることを指摘している。

注5. Stone, P. J. et al., The General Inquirer, A Computer Approach to Content Analysis. The M.I.T. Press, 1966. ストーンらは、この手続を用いて、アメリカの20人の歴代大統領の就任メッセージ、神経症患者の面接記録や自殺者の手記、あるいは民話の分析で成果をあげている。